

弥生時代における鉄器化の過程とその状況

—日本海沿岸地域を中心に—

阿部 大誠

大阪市立大学大学院 文学研究科 哲学歴史学専攻

日本史学専修 後期博士課程3生

Keywords: 弥生時代, 鉄器化, 鉄器生産技術, 日本海沿岸地域, 対外交流

1. はじめに

弥生時代、日本列島では鉄器が導入され、生産や手工業の場で大きな威力を発揮することとなる。このような鉄器化の波は北部九州地域（福岡・佐賀）で始まり、次第に東へと進んでいき、弥生時代後期後葉から終末期（2世紀後半～3世紀前半）にかけて日本列島では広範に鉄器化したと考えられている（村上2007）。しかし、日本列島で鉄器化したにもかかわらず、各地域における鉄器化の状況や、鉄器を製作開始した段階などについての研究は進展していない。そこで本報告では、日本海沿岸地域における鉄器化の状況を整理するとともに、鉄器の普及した状況を明らかにしたい。

2. 日本海沿岸地域における鉄器化

北部九州地域には弥生時代前期末～中期初頭段階で鉄器が流入したと考えられている。朝鮮半島から流入した鉄器は急速に拡散し、中期後葉段階で石川県に到達している。以下では日本海沿岸地域で出土した鉄器を検討し、鉄器化の状況を整理する。

2.1 山陰地域（島根・鳥取）

当地域は鉄器の流入が比較的早く、弥生時代中期前葉で確認されている。また、その出土量も多量であるため、北部九州地域から直接流入したとみられる。しかし出土量の大幅な増加は弥生時代後期中葉～後葉段階であり、鉄器を製作する鍛冶炉等の生産遺構の出現も当該段階であるため、鉄器が集落での定着は後期後葉前後と推定される（会下2019）。

2.2 北近畿地域（兵庫北部・京都北部）

北近畿地域では弥生時代中期後葉段階で鉄器が流入する。中でも京丹後市奈具岡遺跡では中期末まで遡る玉製品生産に付随する鉄器生産遺跡が検出されており、早い段階での鉄器生産が確認されている。当地域でも鉄器の増加は後期後葉段階以降であり、鉄器の本格的な普及が山陰地域とほとんど変わらないことがわかる。

また一方で他地域とは異なり、墳墓からの出土が大半を占める。朝鮮半島南部との直接的な交流を行うことで、鉄器以外の文化や思想なども流入した可能性も指摘できる（福島2016）。

2.3 北陸地域（福井・石川・富山）

北陸地域は小松市八日市地方遺跡のように、弥生時代中期中葉段階で鉄器の流入が確認されるものの、継続しない。本格的な鉄器の流入は後期後葉～終末期段階となる。石川県や福井県では玉製品生産と関連する遺構で鉄器の出土が確認され、他地域と同様に玉製作に鉄器が使用されたことを示唆する（村上 2007）。また鍛冶炉など生産遺跡も確認されており、鉄器生産技術が比較的高い水準であったものといえる。

3. 鉄器化の過程

日本海沿岸地域の鉄器普及の様相を整理した。山陰地域は鉄器化が比較的早く、弥生時代後期前葉～中葉にはある程度の鉄器が普及したと考えられる。北近畿地域では墳墓からの出土が多く、集落での出土事例は少ないものの、後期中葉～後葉段階で鉄器が増加していくという様相を呈する。そして北陸地域では後期後葉～終末期の段階で出土事例が増加する。このように西から順に鉄器化が進行していったことが明らかになった。

4. おわりに：鉄を媒介とした交易

日本海沿岸地域は鉄器出土量も非常に多く、同時期の近畿地域や瀬戸内地域と比較しても量的に圧倒している。遠隔地に多量の鉄器がもたらされた要因として、日本海における長距離の交易が考えられる。鉄器は朝鮮半島から北部九州地域を通り、日本海沿岸部を経て北陸まで到達した。日本海沿岸地域は玉造りが盛行する地域でもあるため、玉製品製作のため鉄器を使用したといえる。これは遺跡から出土する鉄器に錐や針が多いことからわかる。

さらに、鉄器を外部から獲得するだけでなく、鍛冶工房を有し自らで鉄器の製作を開始する。北近畿の奈具岡遺跡のように中期末段階といった早い段階で確認されるとともに、山陰では後期を通じて鉄器生産が行われていた。今後は他地域（瀬戸内海沿岸地域・畿内地域）と比較し、鉄器がどのように普及したのかを詳細に検討していくとともに、朝鮮半島からの流入経路についても考察していきたい。

参考文献

- 会下和宏 2019「弥生時代の山陰地域における鉄器普及の様相」『山陰研究』第 12 号 島根大学法文学部山陰研究センター
- 杉山和徳 2015「東日本における鉄器の流通と社会の変革」西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之編『考古学リーダー24 列島東部における弥生後期の変革 ～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』六一書房
- 福島孝行 2016「洛東江流域の原三国時代墓制と丹後・但馬流域の弥生時代後期墓制」『京都府埋蔵文化財論集 7』京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 村上恭通 2007『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店